

第74回日本皮膚科学会西部支部 学術大会を開催して

(2022年10月22・23日)

※ハイブリッド開催

名 嘉 眞 武 國

久留米大学医学部皮膚科学教室教授

はじめに

この度、第74回日本皮膚科学会西部支部学術大会を、2022年10月22・23日の2日間にわたり久留米シティプラザで開催いたしました。いまでもそうですが、COVID-19には数年にわたり振り回され、本学会の企画や準備には相当に苦慮いたしました。また前回の開催地が宮崎、そして次が沖縄と日本でも屈指の観光地であり、その間に開催する久留米には参加者数が少ないのではないかと危惧しておりました。しかし終わってみれば総参加者数は1,000人、現地参加も600人を超え、予想を大きく上回りたいへん驚かされました。理由の1つとして全国的にCOVID-19に対する制限が緩んだ時期であり、これまでの経緯から皆様が対面での参加を熱望していたのではないかと考えます。また功を奏したと考えた企画について以下に解説します。

特別講演

まず特別講演は5名の先生方に依頼しました。まず1人目は元世界医師会会長で長年日本医師会会長をお務めになられた横倉義武先生で、パンデミック状態に陥ったコロナ禍と今後のかかりつけ医の重要性について、2人目は睡眠学会理事長でもある久留米大学学長の内村直尚先生で良質な睡眠と抗ヒスタミン薬について、3人目は元感染症学会理事長で現東邦大学医学部微生物学・感染症学講座教授の館田一博先生(私の高校の同級生です)で過去、そして今後のCOVID-19との対峙について専門的視点からの話を、4人目は前東邦大学医療センター

大橋病院教授の向井秀樹先生で皮膚科に関する医療事故の対策と問題点について、5人目は久留米大学バイオ統計センター教授の室谷健太先生より皮膚科医に役立つ統計解析についてお話しいただきました。私もわずかな時間でしたがすべての会場を巡り、各会場で多くの先生方が集中して拝聴しつつ活発な質疑応答をしている様子をみて、満足いただける会になったのではと思いました。

テーマとシンポジウム

本学会のテーマを「他科とのコラボから皮膚科学の魅力をも！」としました。近年皮膚炎症性疾患を中心に病態解明や治療について皮膚科だけでなく他科と交えた検討や連携が重要となっている領域が増えています。具体的には「自己炎症症候群」「遺伝性血管性浮腫」「掌蹠膿疱症」「乾癬群」を掲げ、皮膚外科学治療の意義については「(皮膚3大)悪性腫瘍」としました。他科と皮膚科の錚錚たる先生方のおかげでここでもすべての会場で熱気溢れる討論があり、充実したシンポジウムが開催できたと感じました。

ハッピーランチタイム (図1)

近年、多くの学会で会長招宴会や懇親会を催すことができず「おもてなし」に関しては開催側や参加者にとっても不完全燃焼の気分であったのではと常に思っていましたので、何か久留米で喜ばせる企画はできないかと2年前から熟考しておりました。久留米は冒頭に述べましたとおり観光地ではありませんが、国内で屈指のB級グルメの町です。

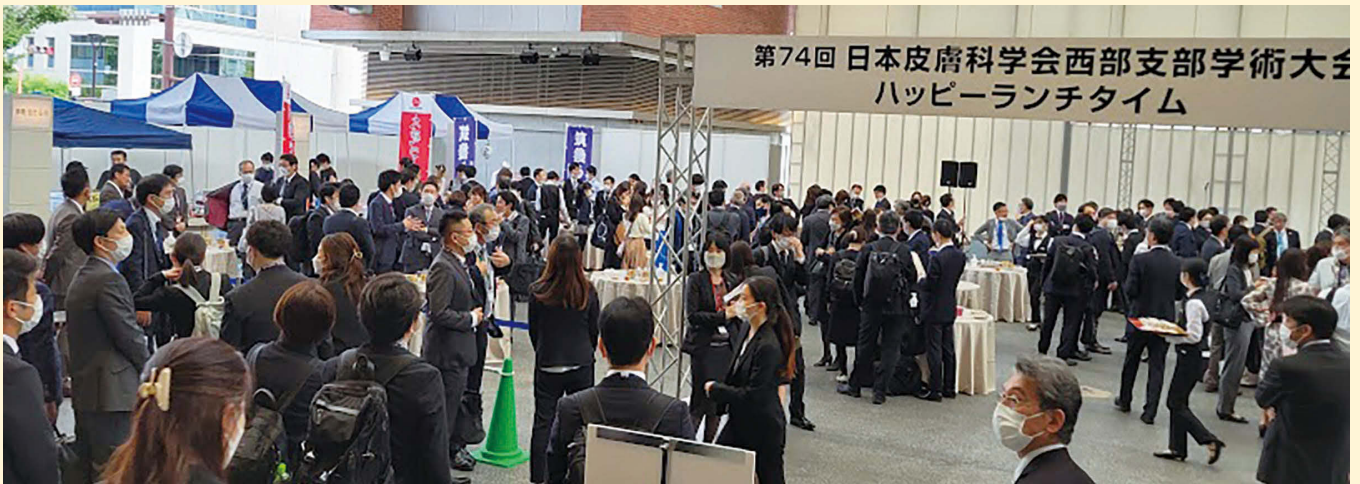


図1 ハッピーランチタイム会場

とくに人口に対する焼き鳥屋の数は日本一です。

そこでサプライズとして昼間に、初のハッピーランチタイムと称したイベントを開催することとしました(図1)。会場は学会場と同じ敷地内で吹き抜けとなっていることからCOVID-19の感染のリスクも低く、屋台として焼き鳥、ラーメン、うどん、鰻のせいろ、寿司、サンドイッチ、デザートを取り揃え、昼間ではありましたが隅に地酒とビールも揃えました。また開催数日前に同イベントに子どもも同伴させてほしいと連絡が入り、それなら久留米のイメージキャラクターである「くるっば」の着ぐるみも準備することとしました(図2)。昼間ながら想定以上に盛況で、もしかしたら参加者の皆様はこのイベントへの参加が目的だったのではないかと(笑)と思うほどでした。あまりの盛り上がり途中で私がステージに上がり「午後のセッションにもぜひ参加するように」と促したほどでしたが、やはりこのようなイベントを皆様が相当に望んで(飢えて)いたのだと強烈に感じ、企画してよかったと思った次第です。ちなみに私自身も多少ビールと地酒を吞んでしまい少し酔っぱらってしまいました。

おわりに

今回の学会を通して、まず嬉しかったことは多くの先生方から各会場ともたいへん勉強になり、各企画ともとても興味深い知識が得られたと聞かされたこと、また昼間に開催したハッピーランチ



図2 筆者と久留米イメージキャラクターのくるっば

タイムが最高であったと称賛されたことでした。終わってみれば充実した学会が開催できたと自画自賛してしまったほどです。しかし本学会が盛会に終了できたのは、準備にもっとも尽力してくれた事務局長の石井文人先生と山田紀子様を中心とした日本皮膚科学会の学会運営事務局の皆様のおかげです。そして西部支部の各大学の教授の先生方、日本皮膚科学会の先生方、久留米大学医学部同窓会および皮膚科同門会の先生方、会場のシティプラザに関わった皆様、久留米コンベンションセンターの皆様のお力添えのおかげであると確信いたしております。ここに御礼申し上げます。